

幼稚園や学校で 話せるようになるまで 時間がかかる子どもがいます

場面緘黙とは？

特定の社会状況（学校など）で話すことができない状態を場面緘黙といいます。

出現率

0.2～0.5%くらい。
海外では0.7%をあげることが多い。

よくある誤解

- ・わざと黙っている。
- ・そのうち自然に治る。
- ・家庭に問題がある。

よくない対応

- ・発話を強制する。
- ・話さないことを責める。
- ・サポートせずにそのままにしておく。

正しい対応

- ・不安を減らし、リラックスできる環境を作る。
- ・できることをほめて、自信を育てる。
- ・安心できるコミュニケーションを促進させる。

このリーフレットには、場面緘黙児を支援するための大まかな指針が掲載されています。

**場面緘黙の子どもたちや保護者には
周りの理解と温かい支援が必要です**

場面緘黙は一般にあまり知られていません。日本では情報が少なく、孤立した状況に置かれている緘黙児や保護者も少なくありません。

**かんもくネット (Knet)は
「場面緘黙児支援のための
情報交換ネットワーク団体」です**

緘黙児の家族、場面緘黙経験者、教育・福祉・医療関係者などの会員からなり、心理士と保護者が事務局を運営しています。場面緘黙に関する知識や実践の情報交換と、もっと多くの方に場面緘黙を知ってもらうための活動を行なっています。

かんもくネットの本やウェブ上のKnet資料を読むと、さらに詳しい情報が得られます。

会員は主にウェブ上で学びあっていますが、地域で情報交換する会も行っています。

詳しくは、かんもくネット
<http://kanmoku.org/> まで

ばめんかんもくじ 場面緘黙児への対応と支援

—保護者の皆さんへ—



場面緘黙児支援団体
かんもくネット
<http://kanmoku.org/>

場面緘黙とは？

場面緘黙とは、家庭で普通に話すのに幼稚園や学校などの特定の状況で話せない、といった小児期のまれな症状をさします。「選択性緘黙」とも呼ばれています。近年の研究では、子どもの不安障害の1つではないかと言われています。

子どもは自分の意思で話さないのではありません。どういう状況で話せないかは子どもによって様々です。特定の友達となら話せたり、音読や発表はできる子どももいます。体が硬直して動けず、無表情でじっと立ちつくしてしまう子どももいます。

入園入学・転校後に生じることが多く、一時的な場合もありますが、適切な対応がないと学校生活を通してこの状態が長く続くことがあります。

原因は？

なぜ場面緘黙になるのか、まだ詳しいことはわかっていません。場面緘黙は、子どもによって影響している要因が異なり、複数の要因が複雑に絡み合って生じるようです。

緘黙児の多くは、生まれながら「行動抑制的な気質」をもつと言われています。新奇なものに対する感受性が高いため不安になりやすく、新しい環境に慣れるのに時間がかかります。まじめで繊細、想像力豊か、芸術的センスをもつ子どもが多いようです。

子どもたちは他には特に問題なく、話すことが必要な場面以外では、たいいてい年齢相応の成長をみせます。軽いことばの遅れ、発達障害の傾向、感覚過敏、排泄障害などをあわせもつこともあります。バイリンガル環境や双子の発達の影響で、場面緘黙が生じる場合もあります。

早期対応と支援が重要です

全く話せない子どもにも、少し話せる子どもにも、早期の対応が有効です。おとなしいだけで、そのうち話すだろうと軽く考えて放置しておく、症状が定着したり、悪化したりすることもあります。8、9歳を過ぎてからの支援では、よりゆっくりとした改善となることが多いです。

家庭と学校が協力しましょう

場面緘黙児への支援は、家庭と学校が協力しあい、継続的な情報交換を行いながら取り組むことが大切です。

場面緘黙は、情緒障害として特別支援教育の対象になっています。担任、特別支援コーディネーター、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー等に資料を見せて、力になってもらいましょう。言葉の発達や認知の問題を抱えている場面緘黙児もいます。自治体の教育・福祉・医療機関に相談しましょう。あなたの力になってくれる人を増やしましょう。

基本方針は？

『楽しく・自信をつけながら・場数を踏む』

- ・ 話すことを強制しません。
- ・ 初めは身振りや仕草など、ことばを用いないコミュニケーションを十分奨励し、その状態に慣れてしまわないよう徐々に発話に近づけていきます。
- ・ 今安心して話せる状況から、スモールステップで話せる場所や人を増やし、学校の教室へと場所を移していきます。
- ・ 子どものペースで進めます。

保護者ができること

- ・ 場面緘黙を不安から生じる症状ととらえ、安心できるよう幼稚園や学校の環境を整えましょう。
- ・ 好きなことや得意なことをのばし、自信が持てるようにサポートしましょう。
- ・ 話せるようになるまでに時間がかかる子どもが、他にもたくさんいることを子どもに知らせてあげてください。子どもの年齢に応じて、何が起きているかや回復への方法について説明してあげましょう。

- ・ 子どもの状態を受け入れ、肯定してあげてください。「大好きだよ」と言葉にして表現しましょう。話すことばかりに注目せず、常にポジティブな言葉がけを心がけましょう。
- ・ 現状に甘んじず、忍耐強く支援しましょう。小さな成果を大切にしてください。
- ・ 家庭での会話を活発にしましょう。言語表現の自信がきます。冗談や笑いを取り入れ、おしゃべりは楽しいものであることを子どもに示してあげてください。
- ・ 家族や親戚・知り合いなど、周囲の身近な人に、DVDや資料を見せて、理解と協力をお願いしましょう。
- ・ 友達と楽しく遊ぶ経験をたくさんさせましょう。最初は1人の友達を家に招いて、交流を促します。
- ・ 言葉を用いない遊びを取り入れましょう。シャボン玉・笛・風船などの口を使う遊び、音をならすような騒がしい遊びがいいでしょう。ペットを飼うことが話す動機づけを高めることがあります。
- ・ おけいこ事や地域の活動、家族同士の交流に参加するよう促しましょう。ソーシャルスキルを学ぶ大切な機会です。
- ・ 先生に家庭訪問をお願いしましょう。家で一緒に遊んで安心できる関係を築くと、発話へとつながります。
- ・ 放課後や休日に、保護者や兄弟・友達と一緒に学校を訪れて遊ぶ活動は特に効果的です。実際の方法は、Knetの本や資料を参考にしてください。
- ・ クラスでの発表や活動参加の方法について、家庭と教師が事前に打ち合わせ、準備することが必要です。極度の緊張や失敗体験が積み重なると、無力感と予期不安が大きくなり、二次的な問題につながります。
- ・ 家庭で自分の声を吹き込んだりビデオに録画して遊びましょう。それを学校で再生したり、教師や友達に見せたりするのもいいでしょう（子どもに許可を取ります）。校内や先生をビデオや写真に撮って家庭で見ましょう。
- ・ 先生や友達と手紙やメール、電話などを用いてコミュニケーションを図ります。
- ・ 保護者の精神的安定が大切です。養育態度が原因で場面緘黙になるとは考えられていません。どうかご自分を責めないでください。
- ・ 場面緘黙への取り組みは長期戦です。一緒に取り組める人を探しましょう。